

ちょっとだけともだち

B 友情、信頼 小学校 中学年



ねらい

「ちょっとだけともだち」という言葉から、人との関わり方にはさまざまな距離感があることに気づき、いろいろな人と関わっていかうとする意欲を高める。

資料提示の工夫

授業開始と同時に、題名の一部を隠し「だけともだち」という言葉を提示する。空欄にどんな言葉が入るかを予想させてから、「ちょっと」が入ることを示す。

思考を促す
発問

- 発問1 「ちょっとだけともだち」って、どんな友達なのでしょう。
- ※一つでも同じ趣味や好きなものをもつ人を「ちょっとだけともだち」と表現していることを伝えたあと、絵本を読む。
- 発問2 帯に「一平くんがあたらしい一歩をふみだす物語」とあります。友達がいないことに悩んでいた一平くんが、新しい一歩を踏み出せたのは、どうしてでしょう。
- 発問3 あなたにとって、「ちょっとだけともだち」と言える人はいますか。
- ※学級で共通点探しなどを行い、「ちょっとだけ」でも「ともだち」と呼べる人を探させることで、子どもたちどうしの関係性を深める。

ポイント

新しい学級が始まってから、少し時間がたった5・6月に取り組むことがおすすめ。お互いの共通点を発見させる機会にすることで、いろいろな人と関わっていかうとする意欲を高めることができる。

出典： なかがわちひろ『ちょっとだけともだち』のら書店

クレジット： なかがわちひろ のら書店